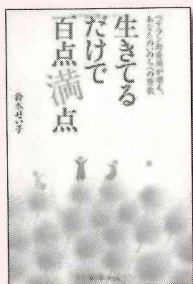


生きてるだけで百点満点

◎鈴木せい子 [著]
◎サンマーク出版
◎2005年



日々、悲しいニュースが流れます。目や耳を塞ぎたくなるような「命」を軽視した事象。

揺れる思春期をどう過ごしたらよいのでしょうか。

必ず訪れる自分探しの旅。戸惑い、悩み、傷つく子どもたちをまっすぐに導いてくれる本。のべ10万人が聞いたという講演の内容がまとめてあり、自分を肯定できることが、他者を愛おしむ気持ちにつながることを教えてくれます。小さい子どもをもつお母さん、お父さんにこそ、今から読んでほしい本です。

命の現場にいる助産師さんからの強く、心の奥底に響くメッセージがあります。子どもたちに携わっている、私たち教育現場にいる保育士や教師も同様です。

子どもたちはどの子も心に灯をもっています。その灯に温かい息吹を吹きかけ、人間らしく輝いてほしい。生きてるだけで百点満点！ (岩本久美子)



ない絵本です。赤ちゃんがこれから大きく成長していくなかで、ワクワク・ウキウキすることと同じくらい、辛く悲しいことも必ず訪れます。そんなとき、出産の場面や気持ちを思い出してほしい。1人ひとりの命はかけがえない宝物であるということ、たくさんさんの愛情に包まれて大きく成長でき、これから先にある困難も乗り越えられる力を皆もっているんだよ！と、力強いメッセージがこの本から伝わります。

そして、講演の最後には「ミネハハ」が歌う『ありがとう』の歌に、皆でじっと聴き入ります。

「ぼくが生まれてきてよかった？」ってママに聞いたら、すごく嬉しかったよって言った「赤ちゃんって、最初はとても小さくてびっくりしたよ」と、年長児が、純粋な瞳をキラキラと輝かせながら、感想を話してくれました。

春の陽射しが温かく降り注ぐ卒園間近の3月、みしま中央保育園では毎年恒例の西方助産師、藤田助産師による「命の話」講演会を実施します。年長児親子を対象に、『生まれてきてくれてありがとう』の本を読みながら、命の大切さを、たくさん教材を使ってわかりやすく教えていただきます。

受精卵の大きさは針で紙に穴を開けたくらい小さいもの。それから、お母さんのお腹の中で大きくなる様子を、本物と同じ重さの人

作詞 (岩堀美雪)

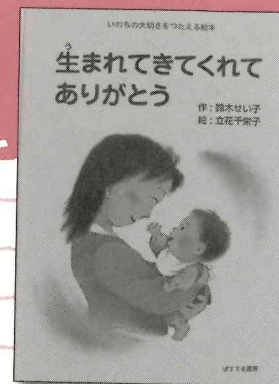
「『ありがとう』」
小さな命宿ったときは
母さん父さん 大喜びだったよ
生まれた時は ただうれしくて
毎日寝顔を眺めていたよ
あなたの笑顔 あなたの泣き顔
握り返した小さな手 歩きはじめた小さな足
あれからどれだけ過ぎただろう
あつという間の今日でした
ただまっすぐに まっすぐに
ただまっすぐに しあわせにと
生まれられてありがとう
母さん子どもでもありがとう
しあわせその手でつかんでね
愛しいあなたの 今よ輝け

2011年10月に、原稿を書いています。
2011年3月11日に起きた東日本大震災で「命の大切さ」を痛感させられました。世のなかで一番尊い「命」を大切に思う子どもたちに成長してもらいたいと、この本を推薦致します。

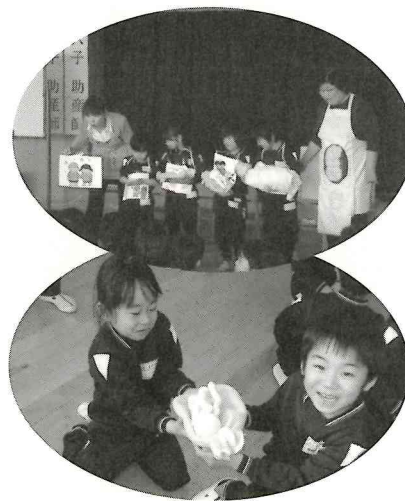
保育園の前庭には、秋桜に混じって百日草が元気に咲き誇っています。百日草の花言葉は……「生きる」です。 (岩本久美子)

生まれてきてくれて ありがとう

ともちゃんのお母さんに
もうすぐ2人目の赤ちゃんが生まれます。
でも……ともちゃんの内持ちは複雑です。
自分だけのお母さんでいてほしいのに……
揺れ動く、お姉ちゃんになる気持ちが
鈴木せい子さんの文と、立花千栄子さんの
優しいイラストにより
ほんわかと温かく心に伝わります。



◎鈴木せい子 [作]
◎立花千栄子 [絵]
◎ばすてる書房



形を実際に子どもたちが抱っこして実感したり、赤ちゃんが産道を通って出産する場面をマットのトンネルを通して体験します。

トンネルのゴールにはお母さんが待っていて、感動の抱っこです。「お母さんのお腹の中から自分の力で頑張って出てきたあなたたち。生まれてきてくれてありがとう！」「生まれてきてくれた喜び、そのときの気持ちを思い出してくださいね。お父さん、お母さん……」と、優しく語られます。

子どもの誕生を知ったときの喜び、ただただ無事に生まれてくれればいいと願った出産。成長と共に親の期待ばかりが増してくる。一番大切なものは「いのち」。生きているだけで100点満点！と、強い熱意が伝わり、お父さん、お母さん、保育士の目に涙が溢れ、会場はシーンと静まりかえります。5歳児の無邪気な顔が、眼差しが、いつになく真剣で、その表情にも心打たれ、感動的で心に残る講演会になるのです。

『生まれてきてくれてありがとう』の著者は鈴木せい子さん。群馬県で助産師をされながら、全国各地でのちのちの大切さを伝える講演会活動やいのちの教育、著作活動など幅広く活躍されています。いのちの原点で責任ある仕事についてこられた助産師さんにしき書け